

## 令和6年度オジロワシ傷病個体収容結果

表1 平成12～令和6年度オジロワシ傷病個体収容結果（令和7年3月31日時点）

年度	交通事故	列車事故	風車衝突	不明衝突	感電事故	鉛中毒	鉛暴露	落水	栄養不良	その他	(件)		(羽)		うち鳥フル
											不明	不明	死体	生体	
平成12	1	1									12	6	8	14	
13	2	1		1		3			1		3	5	6	11	
14	1			2	2	6		1	1	2	2	8	8	16	
15	3	2	2			2		1	1			9	2	11	
16	2	2	1	2	1	2				2	2	6	8	14	
17	5		1	3		1	1		2		2	5	9	14	
18	3		3	1	1	1	1	1	3		5	9	9	18	
19	8	1	6	2		1			1		2	14	6	20	
20	5	2	5	1	1	3			1		5	16	7	23	
21	3	2	4	1		2		1		1	5	7	12	19	
22	3	2	4		1	2			2	3	7	14	10	24	
23	3	3	4	4	1	2	2	1		6	4	9	19	28	
24	1	2	3	1	1	2		2	1	2	2	8	9	17	
25	6	3	7	1	1	4			3	1	3	15	14	29	
26	3	4	3	3	2	1	1		3	1	2	16	6	22	
27	5	6		2	1	1	1		1	2	6	13	12	25	
28	7	4	3	1	1	2		1	1	4	8	19	13	32	
29	3	12	7	2	3				4	2	6	30	9	39	
30	5	10	2	1	3	1	1				3	18	7	25	
令和元	6	5	8	2	1	3	1			6	1	16	14	30	
2	8	11	6	1	3			2	4	5	14	34	19	53	1
3	5	11	1	1	4	1				7	8	26	12	38	7
4	4	13	5		3	1				2	38	47	19	66	14
5	8	19	8	1	3		1			4	8	39	12	51	4
6	5	15	16	4	5					1	12	43	15	58	2
計	105	131	99	37	38	41	9	10	29	51	160	432	265	697	28

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体が存在することによる。

※3 青森県で発生した風車衝突2件（平成23年度に1件、平成25年度に1件）を含む。

※4 平成19年度の「風車衝突」には「風車衝突の疑い」が1件含まれる。

※5 「鉛中毒」は血中鉛濃度 0.6ppm以上又は肝臓中鉛濃度 2ppm以上、「鉛暴露」は血中鉛濃度 0.1～0.6ppm又は肝臓中鉛濃度 0.2～2ppmであったものを示す。

※6 「その他」には、トラバサミ、羅網、食中毒、農薬中毒、感染症、街灯衝突、早期巣立ち、巣立ち失敗等が含まれる。

※7 平成28年度及び平成29年度の各原因別の収容件数が平成30年4月に発表したものと異なるが、これは剖検により収容原因が判明したことによる。

※8 「鳥フル」は、収容後の遺伝子検査により高病原性鳥インフルエンザウイルスへの感染が確認されたものを示す。

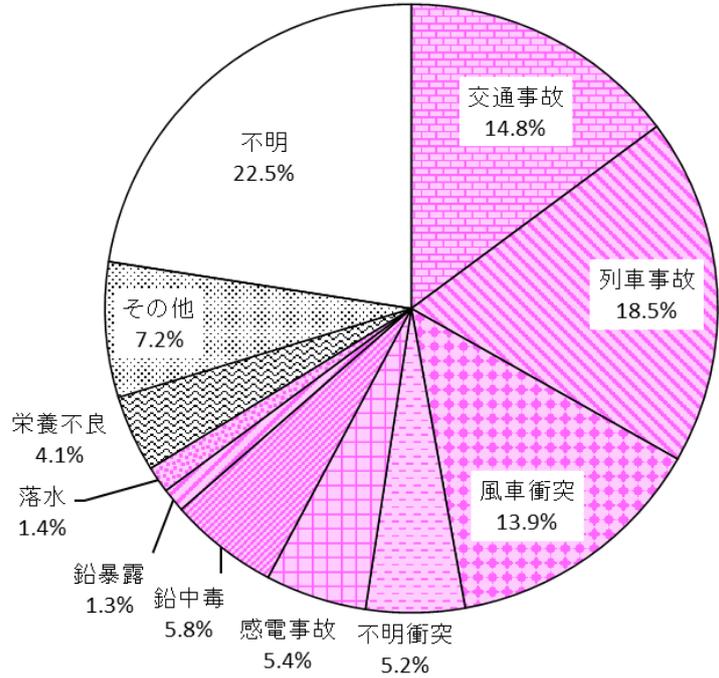


図1 オジロワシ收容原因別割合 (平成12-令和6年度)  
 ピンク色は人為的な要因が関わる收容を示す

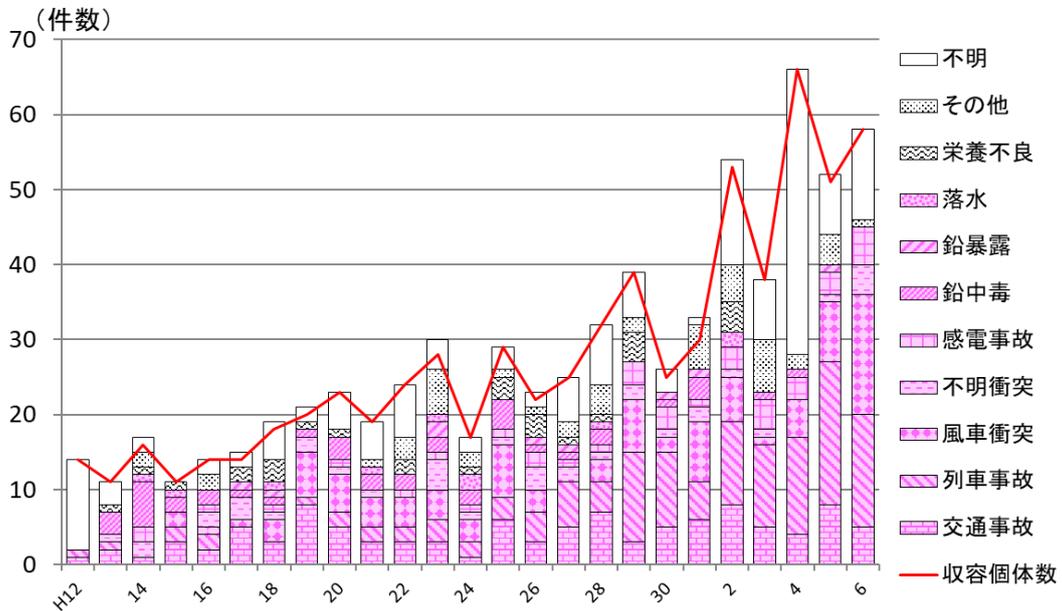


図2 オジロワシ年度別收容件数 (平成12-令和6年度)  
 ピンク色は人為的な要因が関わる收容を示す

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体が存在することによる。